

2020年 大学入試改革も見据え、 21世紀型教育が 本格始動!



アサンプション国際
中学校高等学校
校長 江川昭夫

4月より、アサンプション国際中学校高等学校では英語イマージョン授業、探究科などの「21世紀型教育」を実践する授業が本格的にスタートしました。これらの授業は、皆さんが21世紀をたくましく生き抜き、社会で活躍できる力を身につけるために導入したものです。皆さんがそれぞれの夢や目標を実現し、しあわせな人生を送るためには「確かな学力」を身につける必要があります。そのために知識や技能だけでなく、思考力や判断力、表現力を習得できるよう、文部科学省は2020年の実施を目標に教育改革を推進しており、小中高の教育課程はもちろ

2020年の大学入試改革とは

5月16日(火)に、文部科学省より今後の大学入試制度に関わる「高大接続改革」の進捗状況について報告があり、現在のセンター試験にあたる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の全容が見えてきました。

2020年度より、共通テストの「国語」「数学」については、択一式問題だけでなく、記述式問題が3問程度導入されます。「英語」については、現在の「読む」「聞く」の評価軸から、「話す」「書く」が追加さ

れ、本校でも語学学習の指標としている「CEFR(セファール:ヨーロッパ言語共通参照枠)」の外部の検定試験などの可否または得点が判断材料となります。

また、大学入試個別選抜では、AO入試や推薦入試においても新たなルールを設定する動きがあり、小論文やプレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、共通テスト等のうちいずれかの活用が必須となる予定です。このように共通テストが大きく変わることで、私立大学などの入試にも国公立大学の変化の大きな影響がでてくることになるでしょう。

高大接続改革 (大学入学者選抜改革)

高大接続改革とは、2020年を目標に進められている教育改革の中でも、生徒の資質や能力を育成し「より主体的・対話的で深い学び」が実現するように、高等学校の教育課程の見直しや学習・指導方法だけでなく、その先の大学入試、大学教育の抜本的改革を見据えて進められているものです。

	現行	変更点	2020(平成32)年度～
共通テスト	択一式問題のみ	記述式問題の導入	○センターが作問、出題、採点する。採点には「民間事業者」を活用。 ○国語:80～120字程度の問題を含め3問程度。数学:数式・問題解決の方略などを問う問題3問程度。 ○2024(平成36)年度から地歴・公民分野や理科分野等でも記述式を導入するため検討。
	英語「読む」「聞く」のみ	4技能評価へ転換	<div>A案</div> <div>B案</div>
個別選抜	学力の3要素が評価できていない入試 早期合格による 高校生の学習意欲低下	新たなルールの設定	○AO入試・推薦入試において、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、共通テスト等のうち、いずれかの活用を必須化。 ○調査書の記載内容も改善。 ○出願時期をAO入試は8月以降から9月以降に変更。 合格発表時期をAO入試は11月以降、推薦入試は12月以降に設定(これまでルールなし)。

関西初の21世紀型教育機構加盟校

本校は、この4月より「英語イマージョン教育」、「PBL(課題解決)型授業」、「ICT」を推進する「21世紀型教育機構」に香里ヌヴェール学院とともに関西で初めて加盟しました。現在、メンバー校は全国に15校。早くから21世紀型教育を実践・推進することを目的に学校が連携し、研究会など行うために生まれた「21世紀型教育を創る会(21会)」が前身となり、2016年9月に「21世紀型教育機構」として発足しました。

この機構では、新しい教育づくりに挑戦するだけでなく、教育推進状況をチェックできるように「イマージョン率20%、PBL率50%、高次思考率40%」など独自の評価基準を設け、教育の質を保証する仕組みづくりも行っていくようです。本校でも、その評価基準に合わせセオリティの高い教育を実現していきます。

21世紀型教育機構 メンバー校

2017年4月1日現在 ※五十音順

- ・アサンプション国際小中高等学校(大阪)
- ・工学院大学附属中学校・高等学校(東京)
- ・香里ヌヴェール学院小中高等学校(大阪)
- ・静岡聖光学院中学校・高等学校(静岡)
- ・順天中学校・順天高等学校(東京)
- ・正智深谷高等学校(埼玉)
- ・聖徳学園中学・高等学校(東京)
- ・聖学院中学校・高等学校(東京)
- ・聖パウロ学園高等学校(東京)
- ・東京女子学園中学校高等学校(東京)
- ・富士見丘中学校高等学校(東京)
- ・文化学園大学杉並中学・高等学校(東京)
- ・三田国際学園中学校高等学校(東京)
- ・八雲学園中学校高等学校(東京)
- ・和洋九段女子中学校高等学校(東京)

- ◆受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆2020(平成32)年度「大学入学共通テスト(仮称)」開始※記述式、英語4技能
- ◆2024(平成36)年度新学習指導要領を前提に更に改革

アサンプション国際の21世紀型教育

21世紀型教育の3本柱となるのが「英語イマージョン教育」「PBL(課題解決)型授業」「ICT」です。本校では、英語重視のAEコース、PBL(課題解決)型授業を主とするAGコース、高校2年から理科系科目も重点的に学べるASコースの3つのコースを新設しました。それぞれ、生徒一人ひとりのニーズに応えるコースになっていますが、これからのグローバル時代に必要な「英語力」についてはCEFRを基準とし、各コース学年で目標を設定。これからの大学進学にも必要となってくる、英語4技能(読む、書く、聞く、話す)の習得を目標としています。



中学校の英語イマージョン授業。

この4月からは、ネイティブ教員から、数学や理科などの主要科目を英語で学んだり、教科の枠組みを超えて深い学びを実践する「探究科」という授業が本格的にスタートしました。授業には学習の理解を深めるために、タブレット端末などICTを活用。また、壁一面のホワイトボード、プロジェクターや自由に配置できる机や椅子などが完備された「フューチャールーム」は、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションの場として大いに活用されています。今まで以上に、教室の空気が活気に満ちあふれているように感じ、皆さんの成長に驚かされています。これからも、21世紀型教育を柱として皆さんの学びをサポートしていきたいと思います。



グループワークやプレゼンテーションに最適なフューチャールームでの授業。



6月からiPadが配布されています。